

成功へのキセキ

南の国の「ナデシコ」税理士

第58回 キミの未来は、無限に広がっているよ

5年ぶりに新刊が発売になります。
『ひとりできる 必要なことがパツとわかる 人事・経理・労務の仕事が全部できる本』です。

あれ?!どこかで聞いたことがあるタイトルだな、と思ってくださった方。

めっちゃマニアックな原尚美ファンです(笑笑)。

そうなんです。11年前に生まれてはじめて書いた本が、『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』。

この本は、おかげさまで毎年、重版を重ねて20刷りになりました。この場を借りて、購入してくださった皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

『総務・経理～』は重版のたびに、常に最新の情報に加筆変更してお届けできているのですが、付け加えてきた項目がどんどん増えてきたので、思い切って新しく作り直すのもありだね～と、担当編集の福田さんから提案されたのが、去年のことでした。

『総務・経理～』は、小さな会社の管理業務を一人ですべて任されている人を思って書いた本です。コンテンツの作り方も、文章の書き方も知らないけれど、従業員2～30名程度の会社の経理パーソンが、普段の業務で困っていることや、知りたいことは何かについては、日本一分かっているという自負だけで、必死で書いたものです。

パワボもうまく使えなかったので、図表は手書き(汗)の原稿。自分の書いた本が、書店に並んでいるのを見たときは、やっぱりちょっと感激したものでした。

おかげさまで、ミャンマー事務所も軌道に乗ってきたので、今度は、「わかる本」ではなく、「できる本」を作りたいと完成したのが、新刊『人事・経理・労務の仕事が全部できる本』です。人事・労務の部分については、社会保険労務士の菊地加奈子先生に加わっていただきました。

執筆会議では、あれも書きたい、これも加えたいと、3人の想いは白熱し、ページ数は気にせず、まずは書きたいものを、思いっきり書いてみましょうということになりました。結果、初稿で出来上がった原稿は、ナント650ページ分に…。

いやいや、1,580円の本だからさ、がんばっても300ページちょっとが限界だよ、と編集さん。

そこで、本文中の文章を出来るだけまとめたり、使用頻度の少ない書類は削除したり、波線でカットしてもらって面積を小さくしたりと、校正を繰り返し7校まで修正を重ねることとなりました(通常は3校程度だそうです)。

私自身、20年以上、会計事務所を運営してきた経験から、義務ではないけど、こんな書類を作っておけば便利だよという秘伝のたれならぬ秘伝のノウハウなども、惜しみなく出し尽くすことができたかなーと思っています。

書籍に載せきれなかった項目や、書類のサンプルについては、ダウンロード集へ!

さらに、さらに。

売掛金台帳や、短期の資金繰り帳など、本文中にサンプルが載っているものについては、エクセルバージョンを無理にお願いして、ダウンロードできるようにしていただきました。

編集さんに、最初のコンテンツ案を送ったのが、去年のゴールデンウィーク。そして今年のゴールデンウィークは、6校めのゲラを鞆に持ち歩き、心魂プロジェクトのミャンマーツアーにアテンドしながら、暇を見つけては赤字を入れるというなかなかハードな日程をこなしました。

というわけで、1粒で2倍美味しい、汗と涙の大作をようやく世に送り出すことができたというわけです。

それにしても、どうして私が本を書くようになったのか、出版に興味のある方のためにお話しますね。

さかのぼる事、12年前。ソーテック社の福田さんという見知らぬ編集さんが、突然、事務所を訪ねてきたのです。そのさらに1～2月ほど前に、土業向けに研修会などを企画している方から、「編集者の方に原さんを紹介しておきましたから」というメールをいただいていたので、もちろん本当の意味の突然ではないのですが。

とは言え、その紹介者の方ですら、少し前に参加した研修会の運営者だったという程度の細い繋がりがだったので、そんなメールをもらっていた事も、よく覚えていないという状況でした。

「ビジネス書を書きませんか?」

福田さんは、いきなり企画書(のようなもの)を私に見せて、

◆筆者 原尚美(はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけでできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

単刀直入に切り出しました。

今でこそ、文章を書く訓練をしたことがなくても出版する方が増えていますが、その時の私は、あわわ、あわわ、いやいや、とても無理です～と、ひたすら断っていたように思います。

お金をだして、人さまに読んでもらえるような文章を書くなんて、とても自分にはできるとは思えなかったし、現実問題として会計事務所の仕事はめっちゃ忙しく、執筆にさける時間を捻出できるとも思えなかったからです。

それでも、編集さんのなんの根拠もない「大丈夫ですよ。原さんなら出来ますよ」という押しの強さにその気になり、いつの間にか引き受けていました。

本当に人の出会いは不思議なものですね。

紹介してくださった方と編集さんも、とくに親しくお付き合いされていた訳ではなかったようです。たまたま何かのイベントで一緒した時に、「面白い土業さんがいたら、紹介してくださいよ」と聞かれ、たまたま直近でその方が運営をお手伝いした研修会に参加していた私の名前を教えたとのこと。

その頃の私は、まだ子育ても終わっていませんでしたので、とにかく時間がなく、たしか6回コースだった研修会には毎回遅刻。最終回の検定試験の日は、どうしても日程が合わず、それでも興味のあるテーマだったので、お願いして別日に試験を受けさせていただいたという、まったく悪目立ちの生徒でした。

紹介者としては、ダメ生徒として印象に残っていたのだと思いますが、あとで何と、30名ぐらいいた研修生の中で、検定

試験の成績は私がトップだったとかで、なかなかのインパクトがあったらしいのです。



校正を重ねたゲラの山です(汗)

あの時、時間がないからと、興味のある研修受講

を諦めていたら、今の私はありません。会計事務所の仕事は、もちろん続けていたと思いますが、本を出版することもなく、こうして『TACNEWS』に寄稿させていただくこともありませんでした。

出版に興味を持ったことで、新しい人脈が広がり、ミャンマーとの出会いも生まれたのです。あの時、あの研修を受けなかったら、日程が合わないからと、検定試験を受けなかったら、ミャンマー事務所の開設もありませんでした。

あの頃の私は、子育てと仕事の両立で精いっぱい、その状態に十分満足していました。忙しい時間のなか、本なんて書ける訳がないと、自分で限界を決めつけなくて良かったと、心から思います。

私を見つけてくれて、なんの根拠もなく、「大丈夫だよ」と言ってくださった福田さんのご縁にも、感謝の気持ちでいっぱいです。

この原稿を読んでいる受験生の皆さんへ。

これだけは確信を持って言えます。

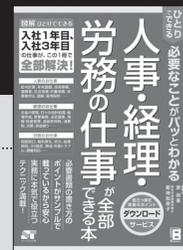
「いまは、まだ将来が見えないかもしれないけど、その角を曲がるとキミの未来は無限に広がっているよ」と。

令和元年
6月20日
発売!!

ひとりでできる 必要なことがパツとわかる
人事・経理・労務の仕事が全部できる本

原尚美 著、菊地加奈子 著(ソーテック社) 1,580円+税

大好評にて20刷の『最新 小さな会社の 総務・経理の仕事がわかる本』の実践版です。「分かる」だけでなく、「できる」に徹底的にこだわりました。消費税の軽減税率や働き方改革にも対応しています。多くの中小企業の現場で役立つ情報を盛り込み、人事・経理・労務の初心者から3年目の中堅まで存分に使える内容になっています!



出版記念セミナー&パーティーを開催いたします

日時: 2019年7月18日(木)午後6時～
場所: ローズガーデン新宿 オークルーム

▶詳細・申込はURLをご覧ください。
<https://20190718seminar.peatix.com/>

<セミナー内容>

「知って得する消費税の軽減税率制度」税理士 原尚美
「働き方改革で押さえておきたい新しい制度の導入ポイント」特定社会保険労務士 菊地加奈子